徳島新聞　平成25年5月19日（日）

健　康

相談室

徳島県医師会

漏斗胸

成長に伴い改善するのか

質問　5歳の息子の胸の中央が陥没し、じょうごのようにくぼんでいます。くぼみは大きくないですが、漏斗胸という病気ではないかと思います。小児科を受診しようと考えていますが、今のところは心肺機能に影響が出ていないので様子を見ています。成長するに伴い、胸の形が改善することはあるのでしょうか。

答え　漏斗胸とは、胸の中央部がくぼんでいる病気です。男児に多く、くぼみの程度はさまざまで、原因に関してはよく分かっていませんが、胸の部分の骨、軟骨の形成異常と考えられています。

ご相談者の5歳の息子さんも、胸の中央がじょうごのようにくぼんでいるようですので漏斗胸と思われます。成長とともに胸の形が改善するかどうかをご心配されていますが、漏斗胸は自然に改善することはまれです。乳幼児期には軽度のくぼみでも、小学校から中学校にかけて徐々に進行します。特に10歳を過ぎるころから、変形が進行する場合が多いといわれています。

漏斗胸による症状は、美容上の問題を除くと普通はほとんどありません。むしろ、精神的な問題の方が重要になることが多いようです。プールや温泉に行ったときに「恥ずかしい」と思い、引け目を感じたり、姿勢が悪く（猫背）なったり、いじめの原因になる可能性もあります。

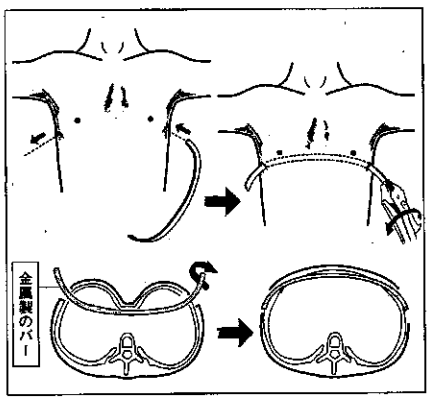
また、風邪をひきやすいなどの呼吸器症状もよく聞かれますが、胸のくぼみがひどい場合には心臓が圧迫され、軸偏位などの心電図異常や動悸、胸痛が出現することもあります。

石橋　広樹科長
徳島大学病院小児外科、小児内視鏡外科
（徳島市蔵本町2）

治療には手術が必要

一般的に治療が必要なのは▽陥凹の程度が強い▽漏斗胸による症状を有する▽精神発達においてコンプレックスを持つなどのハンディキャップが考えられる▽美容的な点から形成を希望される―などの場合とされています。

治療には手術が必要で、以前は、変形した部分の胸骨をひっくり返す方法（胸骨翻転法）、肋軟骨を切除して胸骨を持ち上げる方法（胸骨挙上法）などが行われていました。最近は、より低侵襲で傷も小さく、手術時間も短いNuss（ナス）法と呼ばれる手術が全国的に主流となっています。

Nuss法は、両側の側胸部に2㌢の切開を加え、陥凹している胸骨の裏側に金属製のバーを入れ、裏側から前方へと胸骨を押しだして矯正し、2～3年、胸骨をいい位置で固定した後、バーを抜き取る方法です（図参照）。一般に、5歳以上の漏斗胸の子どもさんに行っています。

最後に、同じ漏斗胸でも一人一人のくぼみの状態は違いますし、年齢が違ってくると治療法は異なりますので、実際に漏斗胸の治療を専門に行っている小児外科を受診し、ご相談されることをお勧めします。